

図書館における子どもの読書活動の推進

(1) 図書館の役割

図書館は、子どもにとって、日常生活の中で、自分が読みたい本を豊富な図書の中から自由に手にとって、読書を楽しんだり、調べたり、学習できる場所です。保護者にとっては、自分の子どもに与えたい本を選択したり、子どもの読書について司書に相談することのできる場所です。

図書館では、子どもや保護者を対象に、読み聞かせやおはなし会の実施、子どもに薦める本の展示や推薦図書リストの作成、各種図書館だよりの発行、ホームページでの情報発信、各種講演会・講座の開催など多様な活動が展開されており、子どもの読書活動を推進するうえで重要な役割を果たしています。

また、子どもの読書活動を推進するサークルやボランティアに対して、活動場所の提供や必要な知識・技術を習得するための学習機会の提供等の支援を行う役割も担っています。

図書館は、子どもにとって最も身近な読書活動拠点であることから、地域における子どもの読書活動を推進するうえで、中心的な役割を果たすことが求められています。

(2) 現状と課題

「平成18年度子どもの読書活動推進に関する調査報告書」によると

① 施設・設備、資料、職員の状況について

● 施設・設備について

図書館は昭和60年に新築開館以来22年が経過し、建物や家具等は、老朽化しています。現在は、使い勝手や管理面の良さからワンフロアの図書館が多くなっていますが、当町の図書館は2階建てのため、資料の移動や管理面から使いにくい図書館となっています。さらに手狭なため、「ゆったりと読書ができるスペースがほしい」という意見が出ています。

また、児童室が独立していないので、利用する子ども達の声が、一般閲覧室に及ぶことがあります。「児童室と一般室を分けてほしい」という意見もありました。

夏場は子どもの利用が1年の中でピークに達するにもかかわらず、閲覧室にクーラーがないので、快適な読書環境とはいえません。アンケートでもクーラーを望む意見がありました。冷房完備の参考図書室は、中高生の夏場の利用が高くなっています。

図書館に必要な不可欠な図書館システムが今もって導入されていないため、日常の業務や利用者へのサービスにおいて支障をきたしています。

● 図書資料について

蔵書冊数は、79,428冊(平成18年3月31日現在)で、うち児童図書は25,325冊です。「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について」(平成13年文部科省告示132号)によると蔵書冊数は、基準を満たしていません。この中には、除籍が行われていないため、現在にはそぐわない自然科学や社会科学の本も蔵書数に含まれているので、蔵書を適正に保つよう努めていく必要があります。また、長く読み継がれて傷みが激しい児童図書や絵本は、買い替えが必要となっています。

年間受け入れ図書冊数、年間購入雑誌点数、視聴覚点数、年間資料費も基準を大きく下回っています。

● 職員について

職員は、専任の司書が2名と公民館兼任の館長及び土・日曜日のカウンター補助の図書館協力員が1名ずつ勤務しています。司書数は人口割による基準を満たしていますが、1日あたりの職員数は2名で「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の7名を満たしていません。

祝日開館や開館時間の延長などアンケートの要望に対応するには、職員の増員や図書館協力員の配置が必要です。

● 子どもの読書に関わる事業について

昭和60年の新築開館以来、おはなし会や読書マラソン、本の展示、子ども版図書館だよりの発行など子どもたちが、おはなしや本に親しみ、読書に興味や関心を持つような、児童サービスに重点を置いた事業を展開してきました。さらに、0歳からの親子触れ合い読書による乳幼児サービスや読書離れの著しいヤングアダルトに対しサービスの向上を目標に、図書の充実やPR活動を進めています。これらの活動により県内第1号として「平成14年度子どもの読書活動優秀実践図書館」の文部科学大臣賞を受賞しました。これは、子どもの読書活動に関わる図書館サークルや読み聞かせボランティアとの協働が大きいと言えます。

② 子どもの読書アンケートと図書館統計による図書館利用状況について

● 図書館を利用するか

子どもの読書アンケートでは、図書館に行きますかの質問で「よく行く」「時々行く」と回答した小学生50%、中学生28%、高校生18%（回答者のうち町内在住38%）となっていて、学年が上がるにつれ、利用の割合が低くなっています。

● 平成18年度図書館利用状況

平成18年度の図書館利用の割合は、幼児12%、小学生41%、中学生5%、高校生2%で、一般は40%です。夏休みや冬休みに開催する読書マラソン等に小学生が多く参加することにより、小学生の利用の割合が高くなっています。過去3年間の図書館における子どもの利用状況は、下記のとおりです。

年 度	幼 児	小学生	中学生	高校生	児童図書貸出冊数
平成16年度	1,714人	9,550人	757人	442人	32,695冊
平成17年度	2,323人	7,793人	576人	450人	30,076冊
平成18年度	2,296人	8,129人	907人	359人	31,603冊

年度により利用状況は異なりますが、赤ちゃん絵本（乳幼児絵本）コーナーとティーンズコーナー（ヤングアダルトコーナー）を設けた平成14年度より、幼児と中学生の利用が増えています。

● 図書館利用の目的

図書館利用の目的は、「本を読んだり借りたりする」が最も多く、続いて中高生は「宿題や勉強をするため」となっています。また、全体を通し、多くの子どもたちが、「自分

の知りたいことを調べる」ことを利用の目的としていることから、図書館では、豊富な種類の本や雑誌が必要とされています。

● 図書館を利用しない理由

図書館を利用しない理由の多くは、「図書館へ行く時間がない」「図書館は家から遠いから」となっています。図書館では、子どもたちが塾や習い事、部活などで忙しい毎日でも利用しやすいように、開館時間の延長や祝日開館を行うなどの対策が必要です。

また、図書館は地理的には、町の中心にあります。図書館から少し離れた地域に居住する子どもたちには、図書館は遠いと感じているようです。保護者からの要望で「移動図書館があればいい」との意見がありました。また、子ども達からは「図書館の分館がほしい」という意見もありました。「移動図書館車の導入は、予算措置を巡り検討していくことが望まれます。また、図書館は遠いと感じている子どもへは、保護者が車で子どもを図書館に連れてくる、親子で一緒に利用するなどの協力も大切です。図書館の分館に関しては、馬門公民館や児童館、勤労青少年ホームなどに図書館の本を配本しています。さらに、配本所を増やす、配本数を充実させるなどの対応が必要です。

「図書館に読みたい本がないから」と答えた割合は、学年が上がるにつれ増加しています。図書館では、ティーンズ（ヤングアダルト）向け図書の充実を年々図っていますが、すべての世代の多様化するニーズに答えるには、十分な資料費の確保が必要です。

● 子どもが好きな本・作家

中高生では、携帯小説や映画・ドラマの原作、ホラー小説、アニメを小説にした「メディアミックス」などが、よく読まれています。全体的にテレビやゲームなどのマスメディアや映画の影響が大きいと言えます。具体的な本に関しては「野辺地町における子ども読書活動推進に関する調査報告書」12ページをご覧ください。

● 図書館への要望

「新しい本や雑誌がたくさんある」「ビデオやDVDやCDがたくさんある」など資料に関する割合が高く、続いて「インターネットの利用」でした。図書館に不可欠な本や雑誌だけでなく、CDやDVDなどの視聴覚資料の充実、高性能のパソコンや視聴覚ブースなどの設備も望まれます。図書館では利用者用パソコンで自館作成の蔵書検索の提供やホームページ等を公開していますが、迅速・正確なサービスの提供と利便性の向上のためには、図書館システムを導入し拡充することが必要です。その他の要望や意見に関しては、「野辺地町における子どもの読書活動に関する調査報告書」の14Pの一覧表をご覧ください。

(3) 図書館に求められる取組の方向

① 読書環境の施設・設備の整備と充実

- 子どもの読書活動を推進していくには、図書館に豊富で多様な本が備わっていることが必要です。十分な図書費を確保するとともに、計画的な蔵書構成に努める必要があります。選書に当たっては、子どもの成長段階に考慮した魅力的な本を揃えることが大切です。また、障がいがある子どもには、点字資料、録音図書、手話や字幕入りの映像資料等の整備も必要です。

- 子どもの読書活動を推進していくには、快適な読書スペースを提供することが必要です。図書館では、子どもがくつろいで利用できる環境の整備と創出に努めます。
- 子どもの読書活動を推進していくには、人的環境の充実も必要です。読み聞かせボランティアの養成や図書館職員が研鑽を積むなど研修会への積極的参加が望まれます。また、祝日開館や時間延長にあつては、図書館協力員の配置などが必要とされています。
- 子どもの読書活動を推進していくには、施設・設備の整備が必要です。図書館から遠距離に居住する子どもへの有効な手段となることから、移動図書館車の整備について検討していきます。
- 子どもの読書活動を推進していくには、インターネットによる蔵書検索や情報検索など図書館の情報化が必要です。さらに、学校とオンライン化することにより、図書館のみならず地域全体での蔵書の共同利用や、蔵書の整備が可能となります。

② 読書に親しむ機会の提供

- 子どもの読書活動を推進していくには、各種おはなし会や読み聞かせ会、ブックトークなど子どもや保護者が、おはなしや本に親しむ多様な機会を提供することが必要です。
- 子どもの読書活動を推進していくには、子どもの成長段階や各世代のニーズに応えるサービスを展開していくことも必要です。

③ 啓発・広報・優良な本の普及

- 子どもの読書活動を推進していくには、読み聞かせや読書の大切さなどの理解と関心を深めるため、各種図書館だよりや講座・講習会などで広く啓発していく必要があります。「子ども読書の日」や「読書週間」の周知も大切です。図書館の推薦図書リストを配布し家庭や地域に普及することや読書情報の提供も欠かせません。

④ 連携・協力

- 子どもの読書活動を推進していくには、町や学校や幼稚園・保育園（所）、地域、家庭、読み聞かせボランティアなどとの連携・協力が大事です。連携により多様な子どもの読書活動が可能となります。

(4) 重点事項と事業内容

重点事項

① 子どもの読書環境の整備・充実

- 図書資料の充実
 - ・ 乳幼児絵本、児童図書、ヤングアダルト（ティーンズ）図書の充実
 - ・ 調べ学習、総合的学習に対応できる参考図書等の充実
 - ・ 基本図書及び子どもの興味や関心、知的要求に応える図書資料費の確保
 - ・ 視聴覚資料、雑誌の充実
- 子どもの発達段階や年代に対応した選書とコーナーの設置
 - ・ 選書： 赤ちゃん絵本（0.1.2才向け）、絵本、児童図書、YA図書（ティーンズ）
 - ・ 各種コーナーの設置： 赤ちゃん絵本、絵本、児童図書、ティーンズ、教科書に出てくる本
- 快適な読書スペース作り



- 各世代の読み聞かせボランティアの養成とスキルアップ、支援

- ・講座、講習会の開催 ・各種研修会へ参加促進
- ・図書館サークル、読み聞かせボランティアの支援

- 図書館職員研修会への参加

- 障がいがある子どもへのサービスの実施

- ・さわる絵本、録音図書、点字絵本などの整備 ・設備の充実

- 図書館の施設・設備の充実

- ・図書館システムの導入 ・移動図書館車の整備 ・祝日開館・開館時間の延長
- ・視聴覚ブースの設置 ・閲覧室への冷房設備の設置 ・新刊図書用ディスプレイ棚の設置



② 子どもが読書に親しむ機会の提供

- 乳幼児サービスの拡充

- ・ブックハロー、ヨチヨチおはなし会、ニコニコおはなしタイム

- 児童サービスの充実

- ・おはなし会、 ・昔話と紙芝居会 ・おはなし工房 ・わんぱくおはなし会 ・おはなし料理教室 ・ドキドキクリスマス会 ・自然観察教室 ・本の展示 ・読書マラソン ・子ども映画会 ・子ども読書相談 ・「のへじの昔っこ」発行 ・読書週間行事の開催（星降る夜のドキドキおはなし会、小さな秋のドキドキおはなし会、読書でスタンプレース、図書館クイズ、おはなしお手紙、一日子ども図書館員、リサイクル図書のプレゼント、お薦めの本展と本の紹介、各種展示会）

- ヤングアダルトサービスの拡充

- ・図書の充実 ・ポップの作成 ・ティーンズによる通信の発行、HPの情報発信、行事の開催

③ 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発、広報

- 各種図書館だよりの発行

- ・図書館だより（一般） ・わんぱく図書館だより「わくわく」 ・図書館通信「ティーンズ」
- ・乳幼児の保護者向け図書館だより「ほんわか」

- 図書館のホームページの充実

- ・一般 ・幼児の保護者「ヨチヨチ」 ・小学生「わんぱく」 ・YA「ティーンズ」

- 各種講座・講演会の開催

- ブックガイド・リストの作成と提供

- ・お薦め本 ・テーマ本 ・新刊図書リスト

- 子ども向け「図書館利用案内」と「図書館探検」の配布

④ 子どもの読書活動を推進するための連携・協力

- 学校、園、読み聞かせサークル・ボランティア、町施設、地域、子ども会等との連携・協力

- ・ブックハロー ・出前おはなし会 ・出前講座、講習会 ・ワクワクおはなしランド
- ・図書館見学 ・調べ学習への支援 ・職場体験、インターンシップ、教育実習の受け入れ
- ・「朝の読書」における朗読、読み聞かせ ・ブックトーク ・巡回配本、団体貸出
- ・図書室（館）運営支援 ・学校図書室（館）との連絡会 ・学校とのネットワークの構築
- ・夏休み朝のさわやかおはなし会 ・読書感想文コンクールへの協力
- ・子どもふるさと歴史教室 ・のへじふるさとカルタ大会



事業内容

① 子どもの読書環境の整備・充実

事業名	ねらいと内容	対象	状況
図書の充実及び選書	ロングセラー図書などの基本図書を充実するとともに、乳幼児絵本、絵本、児童図書、ヤングアダルト図書※1など年齢や各世代の興味や関心に対応した本の選書と提供に努めます。また、調べ学習など、子どもの自発的知的要求に対応する参考図書の充実に努めます。	0歳～高校生	継続
視聴覚資料・雑誌の充実	子どもの多様なニーズに応えるためには、図書のみならず、雑誌やCD、DVDなど視聴覚資料の充実を図ります。	財政措置	拡充
各種本コーナーの設置	赤ちゃん絵本（乳幼児）、絵本、児童、ティーンズ（YA）、教科書に出てくる本など各種コーナー等を設け、おすすめの本及び各世代の興味や関心を考慮した環境整備に努めます。	0歳～高校生	継続
快適な読書スペース作り	絵本に出てくる登場人物などの人形の展示やカレンダーなどを掲示し、温かな明るい雰囲気作りに努めます。さらに、季節感を取り入れた壁面構成など環境美化に努めます。また、子どもが必要な本を探しやすいサインの工夫や配架に心がけます。	町民	継続
各世代の読み聞かせボランティアの育成とスキルアップ	子どもと本をつなぐ読み聞かせボランティアの育成に努めます。ボランティア育成にあっては、絵本の読み聞かせの重要性や絵本の選択、読み方、パネルシアター※2作成の実際などの知識や技術の習得を図るため、さらに、現在活動をしている読み聞かせボランティアに対しては技術の向上を図るために、講座や講習会を開催します。また、県などで開催している研修会等の情報を提供し、積極的に参加するなど働きかけに努めます。 ボランティアは一般のみならず、小学生（わんぱくおはなし隊）や中高校生などを含めた各世代のボランティアを育成するように努めます。	町民	継続
図書館サークル、読み聞かせボランティアの支援	子どもの読書活動に携わる図書館サークルや読み聞かせボランティアに対しては、活動場所や情報の提供、学校等との連絡調整やコーディネートを行い、円滑な活動が行えるよう支援していきます。	ボランティア	継続
図書館職員研修会の参加	より良いサービスの提供と職員の資質の向上を図るため、各種研修会への参加を積極的に行います。	図書館職員	継続
障がいのある子どもへのサービスの実施	子どもの個々の障がいに応じたサービスの必要性を把握し、それに対応するための資料（点字録音図書・さわる絵本等）や設備等の充実や郵送・宅配サービスを行い、障がいのある子どもへの支援に努めます。	幼児 小学生	新規

図書館システムの導入	図書館の貸出・返却・リクエスト・予約・蔵書検索等をトータルに管理し、迅速で正確な図書館業務を行い、インターネットの活用など調べ学習等にも対応したよりよいサービスの提供に努めます。Webでの図書検索や本の予約サービスを提供し、児童生徒の利便性の向上に努めます。	財政措置	新規
移動図書館車の整備	図書館から遠距離にある学校等への館外サービスの向上を図るため、移動図書館車の整備に努めます。	財政措置	新規
祝日開館・開館時間の延長	図書館協力員を配置し、祝日開館や開館時間の延長を行い、児童生徒の利便性を高めます。	財政措置	新規
視聴覚ブースの設置	視聴覚ブースを設置し、子どもが楽しめる図書館、くつろぎの図書館を提供します。	財政措置	新規
閲覧室への冷房設備の設置	視聴覚室や参考図書室の他に閲覧室にもクーラーを設置し、子どもが長い夏休みを快適に図書館で過ごすことができるよう、読書環境の整備に努めます。	財政措置	新規
新刊図書用ディスプレイ棚の設置	本の表紙を見せて展示・貸出するため、子どもの目線や動線に配慮したディスプレイ棚を設置し、新刊図書やおすすめ図書のPRを行い、読書意欲を促進します。	財政措置	新規

② 子どもが読書に親しむ機会の提供

施策・事業名	施策・事業のねらいと内容	対象	状況
ヨチヨチおはなし会（毎月開催）	絵本の読み聞かせ、パネルシアター、エプロンシアター※3、手遊び、わらべうたなどを行ない、親子の楽しい触れ合いを通じて、絵本との出会いを提供します。	乳幼児とその保護者	継続
ニコニコおはなしタイム（随時）	特におはなしの時間は設けず、TPOに応じて、極少数か1対1による読み聞かせを行い乳幼児との絵本を介した触れ合いを深めます。読み聞かせ版のフロアワーク※4です。	乳幼児	継続
おはなし会（毎月開催）	ストーリーテリング※5、紙芝居や絵本の読み聞かせなどを行い、おはなしに親しむ時間を通し、読書の入り口へ誘います。	幼児 小学生	継続
昔ばなしと紙芝居会（毎月開催）	町内や県内始め、古くから伝わる昔ばなしをボランティアに野辺地の方言で語ってもらい、世代間交流を図りながら、昔ばなしの楽しさを味わいます。	幼児 小学生	継続
おはなし工房（毎月開催）	季節感を取り入れた絵本の読み聞かせの後、図書館にある本を元に制作し、創る喜びと楽しさを味わうとともに、指導者との交流を図ります。	幼児 小学生	継続
わんぱくおはなし会	小・中学生が幼児や低学年に読み聞かせを行うことで、読み聞かせることの楽しさや喜びを味わうとともに、異年齢交流を図ります。司書や読み聞かせボランティアが読み聞かせの技術指導を行います。	幼児 小学生 中学生	継続

おはなし料理教室	子どもの好きな料理を題材としたおはなしをテキストにしなが ら、実際に料理を作り、おはなしの楽しさと作る喜びを体 感します。	幼 児 小学生	継続	
ドキドキクリスマス会	クリスマス絵本の読み聞かせやパネルシアター等を通して、 クリスマスの本当の意味を知るとともに、クリスマス絵本等を 紹介し、子どもの読書意欲を高めます。また、おはなしクイズ や手品、ゲームを行い、楽しい時間を提供します。	幼 児 小学生	継続	
自然観察講座・自然 ふれあい教室	月や星座などの天体や草花など、身近な自然を図鑑や関係図 書を使用しながら観察や科学遊びを通して、自然に対する親し みを深めるとともに、自ら図書を利用して調査・観察しようと する態度を育成します。	幼 児 小学生	継続	
本の展示 (毎月開催)	季節や話題に合わせタイムリーな本や図書館お薦めの本の 展示と貸出を行い、本に対する興味や関心を促進します。	町 民	継続	
読書マラソン	夏休みと冬休み期間中に何冊の本を読めるかに挑戦。参加者 には賞品と賞状を授与し、読書意欲を喚起します。合わせて、 一口感想文や友達に薦める本を紹介して、ミニギャラリー等で 紹介を行います。	幼 児 小学生	継続	
子ども映画会	本を原作にした作品を中心に上映し、原作の本の紹介などを 行い、映画と本を結んだ読書意欲の促進を図ります。	幼 児 小学生	継続	
野辺地町の伝説と 昔話の収集と「のへ じの昔っこ」編集	子ども達に、ふるさと野辺地に伝わる伝説や昔話に親しみ、 愛着を持ってもらうため、伝説や昔話の収集を行い1冊の本に まとめます。本は、学校、幼稚園・保育園(所)などに寄贈し、 子ども達の読書や読み聞かせの活用に供します。	町民	新規	
子ども読書相談	どんな本を読んだらよいかわからない子どもや本の探し方が わからない子どもにアドバイスをを行い、読書や本に対する親し みや興味・関心を促進します。	小学生	新規	
読書週 間行事 の開催	星降る夜の“ドキ ドキ”おはなし会	夜に開催し、親子でゆったりと語りや読み聞かせ、人形劇を 楽しむ機会の提供を行います。また、本の紹介を行い、本や読 書に対する関心を高めます。	幼 児 小学生	継続
	小さな秋のド キドキおはな し会	絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、パネルシアターや 人形劇を行いおはなしの楽しさを味わうとともに、読書意欲を 喚起します。	幼 児 小学生	継続
	読書でスタン プレース	読書週間に30冊の本を読み終えると記念品を進呈。楽しみ ながら読書に親しむことを目的とします。	幼 児 小学生	継続
	図書館クイズ“調 べてみよう!”	図書館にある本で調べて、クイズに回答。全問正解者には記 念品を進呈。クイズは学校を通し、全児童生徒へ配布する小学 生と中学生版図書館便りに掲載し、図書館や本への興味を引き 出します。	小学生 中学生	継続

	おはなしお手紙	おはなしに出てくる登場人物に手紙を書き、読後感を深めます。	小学生	継続
	一日子ども図書館員	カウンターの仕事を小学生に体験してもらい、図書館や図書館の仕事に対する親しみと理解を広げます。	小学生	継続
	リサイクル図書の利用	図書館に寄贈された本を希望する子ども達に無料譲渡し図書のリサイクルを図ります。	町民	継続
	お薦めの本展と本の紹介	町民などから心に残る本や感動した本、お薦めの本のなどを紹介してもらい、本の展示と貸出を行います。	乳幼児～高校	継続
	各種展示会	創作物語や一口感想文、おはなしお手紙、読書標語、手作り絵本、エプロンシアターなど読書や本と結びつけた展示会を開催し、本やおはなしに対する興味や関心を促進します。	町民	継続
	ヤングアダルトサービスの拡充	ヤングアダルト図書の整備と充実を一層図るとともに、おすすめ図書などにポップ※5をつけるなどヤングアダルトの読書意欲の促進を図ります。また、図書館通信「ティーンズ」の発行やホームページの「ティーンズメニュー」での情報発信を積極的に行なうとともに、ヤングアダルトの興味や関心、自主性を活かすため、ヤングアダルトを巻き込んだ通信やHPの作成、行事の開催など事業の展開に努めます。	中学生 高校生	拡充

③ 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発、広報

事業名	ねらいと内容	対象	状況
各種図書館だよりの発行	一般向け図書館だより、わんぱく図書館だより「わくわく」、中学生版図書館通信「ティーンズ」、園児の保護者版図書館だより「ほんわか」などを発行し、「子ども読書の日」や「読書週間」の啓発、図書館行事や読書や本に関する情報提供を行います。今後は高校生対象の図書館だよりの発行に努めます。	町民	拡充
図書館ホームページの充実	一般、乳幼児の保護者対象「ヨチヨチ」、小学生対象「わんぱく」、10代「ティーンズ」メニューをとおして各世代に対応した本の紹介や情報提供、子どもの読書に関する啓発を行います。	町民	継続
各種講座・講演会の開催	講師を招き、絵本の読み聞かせや児童図書等に関する講座や講演会を開催し、子どもの読書活動の大切さについての理解や読書意欲の高揚を図ります。	町民	継続
ブックガイドの作成	年齢別、学年別、校種別、テーマ別、読み聞かせに適した絵本等、図書リスト等を作成し、広く利用に供します。	子ども 学校・園 保護者	拡充

子ども向け図書館 利用案内の配布	小学校1年生と図書館を初めて利用する子どもとその保護者に子ども向け図書館利用案内を配布し、図書館利用を促進します。	新入学児童等	継続
図書館探検の配布	図書館見学などで、図書館の仕事や蔵書冊数、利用人数などをまとめた冊子の配布を行い、図書館に対する理解や親しみを深めます。	小学生	継続

④ 子どもの読書活動を推進するための連携・協力

事業名	ねらいと内容	連携先	状況
ブックハロー (再掲)	7ヶ月児相談の時に、保護者を対象として絵本の読み聞かせの大切さや絵本の選び方などを話すとともに、親子に絵本の読み聞かせを行います。今後はブックスタート※8の拡充に努めます。	健康増進センター 社会教育課	拡充
出前おはなし会	依頼に応じて本の朗読や語り、パネル・エプロンシアター、影絵、人形劇などをおはなしサークル「虹色の会」や朗読の会「秋桜」の協力により行います。	学校・園 育児サークル 子ども会	継続
出前講習会・講座の 開催	子どもの読書に関する知識や理解の促進、技術のスキルアップのため、学校、保育園、育児サークル等の要請に応じて、図書館職員が絵本や読み聞かせについての講話や技術指導を行います。	学校 園 育児サークル	継続
ワクワクおはなし ランド	図書館見学などで来館する学校・幼稚園・保育園等の希望に応じ、図書館サークルの協力によりおはなし会を開催します。	学校 園	継続
図書館見学・調べ学 習への支援	図書館見学にあっては、「図書館探検」の冊子の配布や紙芝居等による図書館案内を行い、図書館に対する理解を促進します。また、調べ学習に対応するためのレファレンス※7の充実に努めます。	小学校 中学校 高校	継続
職場体験・インター シップ・教育実習の受 け入れ	中学生や高校生の職場体験やインターンシップ、大学生の教育実習を受け入れ、図書館の理解と関心を深めてもらうとともに、学校の社会教育活動の支援をします。	中学校 高等学校 大学	継続
「朝の読書」におけ る朗読・読み聞かせ	学校の「朝の読書」の時間に、朗読の会「秋桜」や読み聞かせボランティアが、読み聞かせや朗読を行い、おはなしや文学に親しみや本に対する興味や関心を広げます。	小学校 朗読の会	継続
ブックトーク	学校の要請に応じて、おすすめの本の紹介やテーマによるブックトーク※9を開催し、子どもの本に対する興味や関心を引き出し、読書意欲を促進します。	小学校 中学校 高等学校	新規
巡 回 配 本	出先機関や各種施設、図書館から遠距離の小学校図書室に配本を行い、館外サービスの向上に努めます。	小学校 施 設	継続

団 体 貸 出	各種団体や幼稚園・保育園（所）、学校を対象に1セットを20冊として5セット100冊まで、1ヵ月間団体貸出を行います。	園・学校 各種団体	継続
青森県立図書館図書セット貸出の活用	青森県立図書館の「子どもの読書活動推進のための図書セット」を活用し、小学校や幼稚園・保育園（所）の希望に応じて「朝の読書用図書」「父母が読み聞かせをする絵本・児童図書」「大型絵本」の配本を前期・後期に分けて行います。	園 小学校	継続
学校図書館（室）運営支援	学校の図書室運営にあつては、PTAボランティア等に対するブックコートのかけ方、蔵書データ入力、読み聞かせ方法など技術支援を行います。	学校	新規
学校図書館（室）との連絡会	小・中・高校の学校図書館（室）との相互協力を進め、読書普及の推進を図るため、学校図書館（室）との連絡会議を開催します。	小・中・高校 図書室（館）	継続
学校とのネットワークの構築	図書館及び学校にシステムを導入し、資料の共有化に努めます。準備段階として、統一した蔵書のデータベースを作成に努めます。	小学校 中学校	新規
夏休み朝のさわやかおはなし会	子ども会などの要請に応じて紙芝居や絵本の読み聞かせを行い、おはなしの楽しさを味わい、豊かな情操を培います。	子ども会 ボランティア	継続
野辺地ロータリークラブ主催読書感想文コンクールへの協力	夏休み期間中に読書感想文の募集を行い、図書館サークル連絡会員と図書館が審査を行います。野辺地ロータリークラブでは、表彰式を10月に行い、読書感想文集を発行しています。読書感想文集は図書館や学校に寄贈されています。	ロータリークラブ・図書館サークル連絡会・学校	継続
子どもふるさと歴史教室	野辺地町の歴史と文化をテーマとした楽しく学べる子ども向け歴史講座を開催し、郷土の歴史や文化を資料を使って調べようとする意欲の高揚を図ります。	歴史民俗資料館 野辺地町歴史を 探る会	継続
のへじふるさとカルタ大会	子ども読書活動推進に関する調査研究で作成した「のへじふるさとカルタ」を使い、冬休みにカルタ大会を開催します。子ども達の野辺地町の歴史や文化、史跡などに関する興味や関心の促進を図ります。	のへじふるさとカルタ活用委員会	新規

【図書館用語説明】

- ※1 ヤングアダルト(YA) ティーンエイジャー。思春期世代。
- ※2 パネルシアター ネルのパネル板に不織布で作った絵人形を貼ったり、取ったりしながら、はなしを進めていく方法。
- ※3 エプロンシアター エプロンにフェルトで作った絵人形をポケットから取り出し、貼ったり取

ったりしながら、はなしを進めていく方法。

※4 フロアワーク

図書館職員がカウンターから離れ、フロアを移動しながら利用者の様子に応じて、声をかけながら探している本の提供や本の紹介を行う方法。

※5 ストーリーテリング

おはなしを覚えて語ること。素語りともいう。耳からの読書と言えるもので、聞き手は、自由なイメージを広げて、おはなしを楽しむことができる。

※6 ポップ

小さな用紙に目を引くデザインや手書きなどで本の内容や感想を書いたメッセージのこと。ポップにより利用者の読書意欲を高めることができる。

※7 レファレンス

利用者が知りたいことや調べたいことに対し、図書資料を提供して回答すること。参考業務ともいう。

※8 ブックスタート

絵本等が入ったブックスタートパックと一緒にメッセージを伝えながら手渡し運動。

※9 ブックトーク

子どもの読書意欲を高めるために、テーマに沿って、詩や科学の本、読み物、ノンフィクションなど多様な本の紹介をすること。



図書館内の季節による壁面構成



子どもふるさと歴史教室



おはなし工房



行事の案内